

隨泉寺寺報

平成 22 年 (2010 年) 3 月号 第 475 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

春季彼岸会法要

講師 白木町妙国寺住職 斯波徹真師

講題 『生死いずべき道』

■彼岸

彼岸という言い方は「到彼岸」を略したものです。彼岸とは悟りの世界を意味し、迷いや苦悩に満ちたこちら側の岸（此の岸）に対して、あちら側の岸（彼の岸）、つまり極楽浄土のことを指しているのです。では、どうしたら極楽浄土の岸へ渡れるのでしょうか？ 仏教には六波羅蜜の教えというのがあります。

[布施] 他人へ施しをすること

[持戒] 戒を守り、反省すること

[忍辱] 不平不満を言わず耐え忍ぶこと

[精進] 精進努力すること

[禅定] 心を安定させること

[智慧] 真実を見る智慧を働かせること

こうした徳目は本来なら毎日心がけるべきなのですが、日頃は忙しくてなかなか実行できないのではないのでしょうか。そこで、せめて春と秋、年に2回くらいは考えてみましょうというのが、お彼岸法要の意味です。

3月の法座予定

3月 7日 …… 掃除 望ヶ丘

3月 14日 昼席午後1時より …… 春季彼岸会法要

3月 14日 夜席 …… 出張法座 都合により中止

3月 15日 朝席午前10時より …… 春季彼岸会法要 おとぎ

3月 15日 昼席午後1時より …… 春季彼岸会法要

3月 15日 昼席終わり次第 …… 仏婦新旧役員会

4月 2日 午後4時より …… 門信徒会新旧役員会 花見

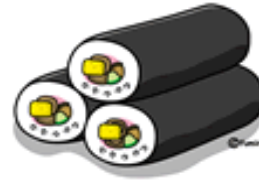


☆ 幸せって？

この世にいのちを得た人で、幸せを願わない人は誰一人いないと思います。そしてそれも、心の底にその願いを常に秘めつつ（無意識の中にも）生活していることも間違いのないと思います。

しかし、不思議なことに、本当の幸せに行き着く人は希（まれ）です。第一「これが幸せというものだ」と定義し得ること自体出来ていないのではないかと思います。

数年前から節分のときに『恵方巻き』とかいう巻き寿司が店先に並び始めました。これも、幸せを求める人の心理を利用した商売人の知恵でしょう。その年の方向を向いて、太巻き寿司を頬張る人は年々多くなっているようです。そういうことを素直に行動出来る人々を「幸せを求めているのだなあー」と思っております。



お金が幸せそのものではないと言い聞かせながらも、やはり、お金が生活の基本だということも事実でしょう。

勿論、人間は“無いものねだり”で、病気や介護で苦勞している人は、『健康で元気に自由に動けることが幸せの第一条件！』と言われるに違いありませんし、離婚や嫁姑の人間関係問題で疲れ

ている人にとっては、お金も健康も大切だけど、人間関係が悪いと何にもならない。「良き人間関係があれば何でも乗り切れる」と主張されるに違いありません。

では、人間関係もよく、お金も十分あり、健康にも問題がなければ幸せかと云うと、それでも幸せではないという人もいます。「生き甲斐が欲しい。打ち込める仕事が欲しい、一生楽しめる趣味が欲しい」と・・・。



では、この全てが満たされたらそれで幸せかと云うと、どうでしょう？ そう云う人は極々希

でしょうけれど、案外「何も問題が無いこと程つまらぬものは無い。多少の苦勞や悩みがあってもそそめりハリのある人生ではないか。」と云うことになりはしないのでしょうか。幸せを求める人間の食欲さには限りがありませんが、一方、これが幸せと云うものも無いと言えるのではないのでしょうか。

結局は、今を幸せに感じる事が出来なければ、永遠に幸せは得られないのではないかとおもいます。

☆御礼

永代経懇志 金 拾萬円 前田基美殿 故 前田トシコ様 特 永代経志として

永代経懇志 金 拾萬円 上多敏枝殿 故 上多武義様 特 永代経志として

☆御礼

門信徒会へ 金 一封 前田基美殿 故 前田トシコ様 香典返しとして

☆御礼

仏教婦人会へ 金 一封 植木岩夫殿 故 植木サツエ様 香典返しとして

3月

信は うたがいなきころなり

『唯信砂文意』（註釈版聖典 699 頁）

高校の教員をしているときの話です。

いつも遅刻してくる生徒に注意をしていると、その場を逃れたいばかりに、「明日は絶対に遅刻しません。信じてください」といったりします。「信じられない」というと、「もし遅刻すれば、一週間掃除をします」など、自分で遅刻したときの罰則まで用意します。「そこまでいうなら、あなたを信じるから、遅れないように」といって、次の日を待ちます。

こんな場合は、翌朝、大体は遅刻しませんが、生徒の登校を待つ間は「たして遅れずに来るのだろうか」と気をもみます。「信じる」といいながら、その生徒を信じることができないからです。

「私はあなたを信じます」という場合は、必ずしも信じられないのに、無理に信じようとしていることが多いようです。

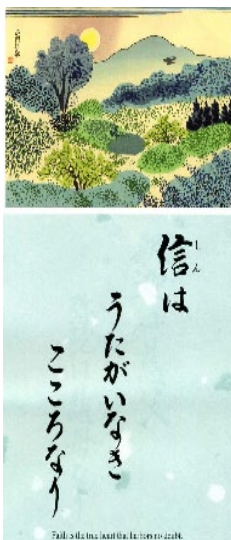
毎日決まった時間に登校する生徒に、「あなたは遅刻しないことを信じています」ということはありません。遅刻の心配をする必要がありませんから、信じる、信じないなどと思うこともありません。では、この生徒を信じているのかといえば、もちろん百パーセント信じています。このように考えますと、信じるということは、「もしかしたら、遅刻するかもしれない」という疑問がないことだともいえそうです。

親鸞聖人のいわれる信も、この例えのようなものかもしれません。

『歎異抄』に、次のような話があります。浄土で仏のさとりを開きたいと願うならば、早く浄土に往生したいという気持ちになってもいいはずですが、そのようには思えないという門弟の問いに答えて、親鸞聖人も同じ気持ちであると、答えられます。さらに、往生したいと思わないのは、煩惱のせいであると示されます。その上で、阿弥陀仏はこのようなものに向かって、「まかせよ、必ず救う」と誓っておられるのだから、阿弥陀仏の誓いは、たのもしいとされます。

「まかせよ」といわれて、「こんな私では、まかせても救われるはずがない」というのではなく「こんな私に向かって誓われているのだから、往生はますます間違いない」と受け取められるところに、仏に対する信頼のすがたが見られます。それは信じようと努力することではなく、何の心配もないという心のように思われます。

また、『歎異抄』では、師の法然聖人にだまされて、念仏して地獄に落ちたとしても、後悔しないとも述べられます。親鸞聖人にとって、念仏が、唯一つのさとりの道であるということや、法然聖人に対する信頼感の大きさもありますが、阿弥



陀仏の教えが真実であるという確信がこの言葉になったと窺われます。

☆ いのちの理由 作詩・作曲：さだまさし

私が生まれてきた訳は 父と母とに出会うため
私が生まれてきた訳は きょうだいたちに出会うため
私が生まれてきた訳は 友達みんなに出会うため
私が生まれてきた訳は 愛しいあなたに出会うため

春来れば 花自ずから咲くように 秋くれば 葉は自ずから散るように
しあわせになるために 誰もが生まれてきたんだよ
悲しみの花の後からは 喜びの実が実るように

私が生まれてきた訳は 何処かの誰かを傷つけて
私が生まれてきた訳は 何処かの誰かに傷ついて
私が生まれてきた訳は 何処かの誰かに救われて
私が生まれてきた訳は 何処かの誰かを救うため

夜が来て 闇自ずから染みるよう 朝が来て 光自ずから照らすよう
しあわせになるために 誰もが生まれてきたんだよ
悲しみの海の向こうから 喜びが満ちて来るように

私が生まれてきた訳は 愛しいあなたに出会うため
私が生まれてきた訳は 愛しいあなたを護るため

親鸞聖人がお亡くなりになりましたのは、今から747年前のことです。2年後の2011年には、「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌（ごおんき）」をお迎えいたします。

その同じ2011年に、浄土宗でも、「浄土宗宗祖法然上人800年大遠忌」をお迎えになります。法然上人は、親鸞聖人のお師匠様です。

浄土宗では、今回の大遠忌を迎えるにあたって、シンガーソングライターの〈さだ・まさし〉さんに、記念曲の制作を依頼なさいました。

その歌が完成して、去年の6月に、知恩院で奉納法要がありました。「いのちの理由」という歌です。

人の出会いの縁を歌った、なかなかいい歌でした。

